

# 心友会だより

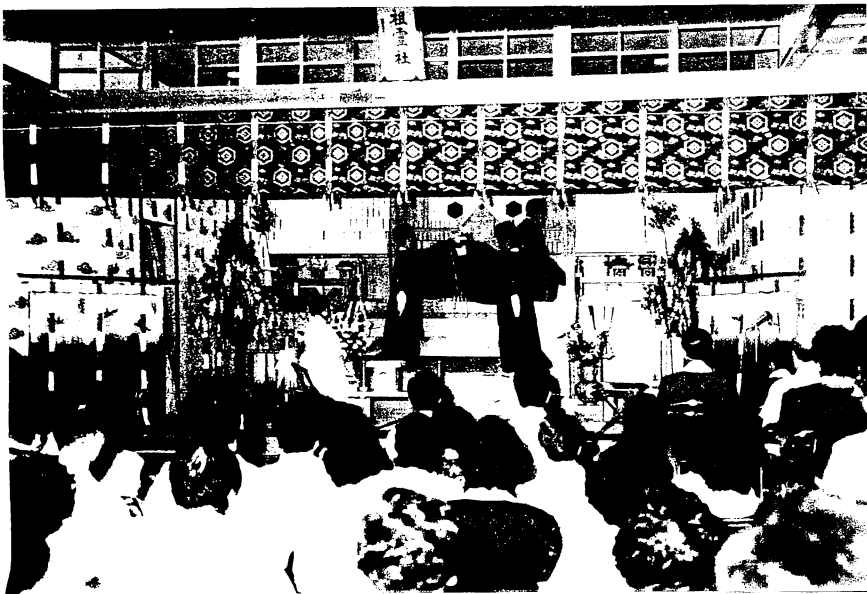
第 3 7 0 号

昭和44年6月11日創刊  
 平成17年3月8日発行  
 発行所及責任者 川崎市多摩区東生田4-13-17  
 電話番号 044-976-0708  
 郵便番号 214-0031  
 宗教法行人 出雲心友会 藤武彦  
 編集兼 毎月8日1回発行  
 1部150円 (送料共)  
 年間購読料1,800円

## 春季祖霊大祭

あの世の神であらせられる出雲の神のお恵みによつて吾々日本人の先祖の御霊

を御供養する祭事を、祖霊大祭と申します。日本人は遠い昔から先祖を祀るとい



祖 霊 大 祭 の 御 祭 風 景

う事を非常に厳格に行なってきました。これ程先祖を敬い奉る民族というのは他にはないと思われま

す。皇室におかれても、春季皇霊祭、秋季皇霊祭と申し

まして、天皇家の御先祖の御霊祭を神道にてなされ、

一般国民に先祖供養の大事

な事を率先して範を垂れて

いらつしやいます。この日を

を仏教伝来より「彼岸」と

名付けて、仏教の祭事の様

になつてきている昨今です

が、本来日本民族の先祖供

養の神事なのです。四季毎

に先祖の御霊を偲んで墓参

りをしたり、又先祖様が家に帰つてくると云う残された子孫と先祖との一体感、先祖が守護霊となつて守つてくださるのだという、常に自分の肉体の親に対する感謝は、魂の親である大神様を慕う信仰と同一に、日本人の魂の中に伝統としてひきつがれてきておりま

す。

私たちの御守護神である

大國主大神は、古代から幽

顕一体の神(この世の事も

あの世の事も司どられてい

る神)として、私たちの生

死を司り、死後の靈魂の安

定を計つて下さる唯一の神

なのです。

人間は、肉体的なその死

をもつてすべてが終わるわ

けではありません。分霊と

しての靈魂は、死後五十日

は地上にとどまりますが、

以後、生きさまによつて行

く場所が違います。

肉体を失つて霊となつて

しまつと、自分で業を果た

し徳を積むことができません。ですから私たちが、霊にかわつて業を果たさせて頂くのです。

らつたり、お経をあげても

らつたりして済ませる類い

の事ではありません。もち

ろん命日など節目節目には

それも必要でしょう。

しかし、日々の御供養は

残された子孫が真心でさせ

て頂くのが本来の姿であり

御先祖様もお喜びになるはず

です。

他人である神主や任職と

肉親である子孫たち……。

自分に置きかえて考えれば、すぐにわかると思いま

す。

先祖供養とは、肉体の親

である御先祖様に対して、

させて頂くもので、彼岸や

お盆などに思い出した様に

するものではありませんが、それも大切な御供養です。私共でも春季祖霊大祭を三月二十日(日)に仕えさせて頂きますので、万障お繰り合わせの上、是非おま

を致しましょう。

近世になり、ようやくこ

の真理を神学的、教学的に

発展させ発表したのが、平

田篤胤です。その後、数名

の学者の研究により、神道

が再び認識される様になりました。

また、日本人の生命に対

する考え方の一面は「国民

の祝日に関する法律」にも

みる事ができます。

それによりますと、春分

の日は「自然をたたえ、生

物をいつくしむ」とあり、

秋分の日には「先祖をうやま

い、なくなつた人々をしの

ぶ」とあります。すなわち

春には、萌え出る生命。秋

には枯れて行く生命。生命にはそうした二つの側面があります。そのような生命に想いを馳せるのが、春分・秋分の日、言いかえれば、春季・秋季祖霊大祭でもあるわけです。

春季祖霊大祭にあたり、

みたま祭の意味をふりかえ

つてみました。この事が、

大國主大神の幽世をしらしめすという御神徳に依拠しているという事は、いつの世も変わらないのです。